令和７年度

総合的な探究の時間

教科「情報」／地理総合　教科連携

～地域課題解決プロジェクト～

きみぴょん
君津市

オッサくん
市原市

ガウラ／ソデリー
袖ケ浦市

きさポン
木更津市

ふっつん
富津市

千葉県立袖ヶ浦高等学校　第１学年

＿＿組＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

～総合的な探究の時間とは～

この時間は、みなさんが変化の大きな時代に対応していく力を身に着けるために設定された科目です。「教科横断的・総合的な学習」、「協働的な学習」、「総合的な学習」という３つの特徴があります。

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことをとおして、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成することを目標にしていることから、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものです。

実際生活にある問題を取り上げることで、みなさんが課題を解決しようと真剣に取り組み、自らの能力を存分に発揮する。こうした一連の問題解決の中で育成される能力は、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力など、実社会において求められる能力です。

現地調査など地域で活躍する大人との出会いは、みなさんの将来の選択肢を広げます。社会における自分の役割を考えるきっかけとなり、働くことの意味を具体的に理解することにつながります。これらの活動から、自分の良さであったりさまざまな可能性を見つけてほしいと思います。

～「教科横断的・総合的な学習」について～

地理総合　１学期に単元「地理的な課題と地域調査　教科書 P220~227」を取り上げる。

内　　容　私たちの居住地域（生活圏）の自治体が抱える課題を調べて共有する。その現状や課題、問題点を調べて紙資料を作成、屋台村形式でクラス生徒全員が課題を共有する。

実施計画　５月末　班（５人１組）分け　各クラス８班　課題調査
＜市原市２班　袖ケ浦市２班　木更津市２班　君津市１班　富津市１班　計８班＞
６月初　担当する市の課題を調べ、ロイロノートを活用して班内で情報共有する。
Ａ３厚紙６～１０枚程度を利用し、発表資料を班員で分担して作成する。
各班で３～４つの課題に絞り、一人が１つ以上の課題の資料を作成する。
６月中　発表会　ポスターセッション／屋台村方式　１時間に４展開（10 分×4）
発表者は１展開１人。全員が自班・他班の発表を聞く。すべての発表を聞き、自己評価表を記入する。各市の課題をこのパンレットにもまとめる。

教科「情報」　資料作成のための**「Ｋｅｙｎｏｔｅ」「パワーポイント」**の利用方法を学習する。

総合的な探究の時間　**「地域課題解決プロジェクト」のタイムテーブル**

内　　容　私たちの居住地域（生活圏）の自治体などが抱える諸課題とその現状、今後の展望について７つの分野別グループ（A～G）に分かれる。各グループは３５名前後とする。

それぞれの分野別グループにおいて５～６名の班をつくり、課題テーマを決める。班ごとに課題を設定・調査・探究し、各分野別グループで発表会を行う。最終的には諸課題の解決に向けた提案をめざす。２月に分野別の代表班による全体発表会を実施する。

実施計画

６月	総探「地域課題解決プロジェクト」オリエンテーション 6/12、**希望調査は 6/18 まで**		
７月	分野別グループにおける班分け・協議 6/26　**夏休みの訪問先検討・調査 7/3**		
	企業訪問等の注意事項　質問やインタビュー内容の検討　**訪問準備 7/10・7/11**		
夏休み	フィールドワーク／現地調査／市役所担当課・企業訪問／体験等　担当職員引率		
９月	夏休み中の調査・訪問の**ふり返り・礼状指導 9/4**	（各分野別教室）	２時間
１０月	個人プレゼン資料作成、中間報告会①　自己評価①	（各分野別教室）	２時間
１１月	出張講座　個人プレゼンテーション　班テーマ検討	（各分野別教室）	３時間
１２月	班テーマ決定・資料作成　自己評価②	（各分野別教室）	４時間
１月	プレゼン資料完成　班別発表会（中間報告会②）	（各分野別教室）	３時間
２月	全体発表会・総まとめ（体育館）　自己評価③		２時間

地理総合「地理的な課題と地域調査」

※ポスターセッション、屋台村方式。発表は一人2回。発表がない時は他班の発表に参加する。

※A3用紙6～10枚分の紙資料を作成する。発表時の読み原稿等は、ロイロノートで班員の情報を共有する。

（　　）組（　　）班　担当市（　　市）　発表１回目　６／　　（　　）限目

発表２回目　６／　　（　　）限目　　発表３回目　６／　　（　　）限目

発表者／班員名

①（　　番）　②（　　番）　③（　　番）

④（　　番）　⑤（　　番）　　班長に〇

第１回目　６月＿＿日＿＿限目　４展開分　あなたの発表担当番号（　　）

発表の割振り　午前授業（１～４限）　タイムテーブルは１限目想定と同様で実施

１時間目想定　発表時間は１展開８分　移動等２分

８：５５　第１展開　開始　　自分の班の発表担当（①　　）　自分の班の発表を全員で

９：０５　第２展開　開始　　自分の班の発表担当（②　　）　自分の見学先（　　）班

９：１５　第３展開　開始　　自分の班の発表担当（③　　）　自分の見学先（　　）班

９：２５　第４展開　開始　　自分の班の発表担当（④　　）　自分の見学先（　　）班

発表の割振り　午後授業（５～７限）　タイムテーブルは５限目想定と同様で実施

５時間目想定　発表時間は１展開５分～７分

１３：３０　第１展開　開始　　自分の班の発表担当（①　　）　自分の班の発表を全員で

１３：４０　第２展開　開始　　自分の班の発表担当（②　　）　自分の見学先（　　）班

１３：５０　第３展開　開始　　自分の班の発表担当（③　　）　自分の見学先（　　）班

１４：００　第４展開　開始　　自分の班の発表担当（④　　）　自分の見学先（　　）班

第２回目　６月＿＿日＿＿限目　４展開分

発表の割振り　午前授業　タイムテーブルは１限目想定と同様で実施

１時間目想定　発表時間は１展開８分　移動等２分

８：５５　第１展開　開始　　自分の班の発表担当（⑤　　）　自分の見学先（　　）班

９：０５　第２展開　開始　　自分の班の発表担当（①　　）　自分の見学先（　　）班

９：１５　第３展開　開始　　自分の班の発表担当（②　　　自分の見学先（　　）班

９：２５　第４展開　開始　　自分の班の発表担当（③　　）　自分の見学先（　　）班

発表の割振り　午後授業　タイムテーブルは５限目想定と同様で実施

５時間目想定　発表時間は１展開５分～７分

１３：３０　第１展開　開始　　自分の班の発表担当（⑤　　）　自分の見学先（　　）班

１３：４０　第２展開　開始　　自分の班の発表担当（①　　）　自分の見学先（　　）班

１３：５０　第３展開　開始　　自分の班の発表担当（②　　）　自分の見学先（　　）班

１４：００　第４展開　開始　　自分の班の発表担当（③　　）　自分の見学先（　　）班

第３回目　６月＿＿日＿＿限目　２展開分　評価・自己評価表提出

第１展開　自分の班の発表担当（④　　）　自分の見学先（　　）班

第２展開　自分の班の発表担当（⑤　　）　自分の見学先（　　）班

残りの時間で評価カードを記入・整理／すべて記入して提出。

※別紙「評価表」を第３回目に提出

メモ

地理総合「地域課題研究」　発表メモ

クラス内での発表を聞き、それぞれの市の課題や現状について記録をしておこう

市原市の課題等
袖ケ浦市の課題等
木更津市の課題等
君津市の課題等
富津市の課題等
今回の学んだことを生かして、今後の総合的な探究の時間で深く学んでみたいことなど

評価項目	準備に積極的に取り組んだか	担当市の課題を理解できたか	論理的に説明できたか	わかりやすい発表ができたか	適切な発表資料をつくれたか
1～5で評価					
評価項目	他班の発表をしっかり聞けたか	各市の課題を理解できたか	自己総合評価 関心・意欲・態度	知識・理解	資料活用の技能
1～5で評価					

探究学習の留意点

今後の探究学習は、みなさん自身がさらなる課題を検討し、情報を集め、整理・分析し、解決策を考え実践していく一連の学習プロセスを指します。その本質は、「自分で考え、行動し、振り返る」という主体的な学びのサイクルを通じて、生涯にわたって学び続ける力を育むことにあります。

参考までに、探究学習のテーマ設定でつまずくケースは、大きく以下の 3 つに分かれます。

1　興味を持てないテーマを選んでしまう

「SDGs について調べよう」「地域活性化について考えよう」など、社会的な意義は確かにあるものの、生徒自身にとって実感の湧きにくい、**大きなテーマを設定してしまう**ケースです。

2　調べ学習で終わってしまうテーマを選んでしまう

「○○について調べる」という形でテーマを設定してしまうと、インターネットや文献での情報収集で終わってしまい、本来の探究活動につながりません。たとえば「地域の歴史について調べる」というテーマでは、既存の情報をまとめる作業で終わってしまいがちです。

3　検証が難しすぎるテーマを選んでしまう

「世界平和の実現方法を考える」「少子化問題を解決する」など、スケールが大きすぎて具体的な活動に落とし込みにくいテーマを選んでしまうケースです。**テーマは抽象的でないもの**にしましょう。

総合的な探究の時間　「地域課題解決プロジェクト」

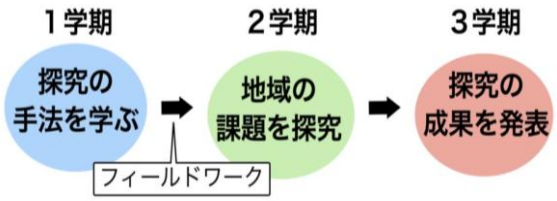
みなさんの居住する周辺の地域社会は多種多様な問題を抱えており、既存の枠組みでは対応しにくい課題が山積みしています。 地域課題の解決は地域の経済成長だけでなく、社会全体の発展にもつながるため、地方自治体にとっては、解決手段を模索することが急務です。

今回の総合的な探究の時間での課題は、「**地域課題解決プロジェクト**」として、地域社会が抱える課題をみなさん自身が再発見し、情報を共有して対応策を考え、協働することによって解決することをめざすものです。そのために希望に応じて以下の７つの探究分野別のグループ分けを行います。　※人数調整あり

班	担当職員	使用教室	探究テーマの分野
A	○白井敏・米　澤	１１Ｒ	観光振興、経済、流通、まちの魅力発信などに関すること
B	○星　野・中　村	１２Ｒ	少子化、子育て支援、生活支援、教育などに関すること
C	○白井正・岡　本	１３Ｒ	環境、エネルギー、自然、水質や生態系などに関すること
D	○石　守・福　原	１４Ｒ	防災システム、災害、防犯、交通などに関すること
E	○服　部・宮　野	１５Ｒ	医療、看護、食生活と健康、衛生、スポーツ、その他
F	○最　首・山　崎	１６Ｒ	伝統文化の継承、博物館、芸術、祭りなどに関すること
G	○成　田・山　田	物理実験室	超高齢社会とデジタル格差、介護福祉などに関すること

予備　物理講義室

１　探究学習とは



探究学習を成功させるには「課題の設定」「情報収集」「情報の分析」「まとめ」と大きく分けて４つのポイントがあります。それぞれ見ていきましょう。

（１）学習課題を設定する

学習課題の設定とは、探究学習で探究したい「テーマ」「課題」「問い」を設定することです。探究学習で重要なのは、この学習課題をみなさん自身が設定するところにあります。しかしながら、この学習課題の設定が一番難しいといえます。最初の課題設定を誤ると深い学びにつながらない、モチベーションが上がらないなどの失敗につながってしまうことがあります。そのため、まずは上の表のような探究分野を絞ってください。次に、その分野の中での課題や自分の問いを決めます。

（２）情報収集を行う

情報の収集方法を精査することも、探究学習を失敗しないために大切なことです。私たちはすぐにインターネットで情報を集めようとしますが、その情報の正確性や信ぴょう性を考えさせることが重要といえます。図書館の利用、現地調査、インタビューなど、さまざまな情報収集の場を用意することも、探究学習を成功させる鍵となるでしょう。

（３）集めた情報を整理・分析する・自己評価を行う

情報をただ集めただけでは課題解決につながりません。集めた情報を正しく整理し、分析することは、探究学習の目標である「思考」「判断力」を養うために大切なことです。まずは、事実とそうでないことについてしっかりと区別しましょう。そしてその事実について「分析」「課題の提示」をします。

例えば「地域について調べた結果、○○ということが分かった」という事実に対して「なぜ○○なのか」「どうしたら○○になるか」という分析や仮説、課題を考えます。

（４）まとめ・発表・フィードバックを行う

探究学習のまとめの方法としては、レポートや論文にまとめる、ポスターにする、プレゼンテーションする、ディスカッションする、報告会を開くなど…。まとめたものを発表することも大切ですが、より重要なのは活動自体を振り返る「フィードバック」を行うことです。文部科学省によると、探究学習とは「生徒自ら課題を見つけ、情報を収集・整理・分析しながら、問題の解決に取り組み、意見をまとめ・表現することを繰り返していく学習活動」とあります。探究学習は一度の探究活動で終わるのではなく、活動と修正を繰り返しながら「もっと学びたい」という探究心を育むものだといえます。

令和7年度 第1学年『総合的な探究の時間』オリエンテーション

～自分の居住地域の課題を見つけて調査・研究し、その成果と解決策を発表する～

- ○ まちに繰り出し、自分の居住地域を見つめよう（観察）
- ○ 取り組むべき課題を見つけ出そう（発見）
- ○ どうすれば良くなるか、動きながら考えよう（調査、分析、検討、改善提案の作成）
- ○ 成果をシェアしよう（つくりあげた改善提案を発表、評価をもらう）

1　探究のための分野別グループについて

※今後は以下の探究分野 A～G に分かれます。あなたの興味・関心から希望グループを選びます。

A．まちおこし　観光振興、地域の経済発展、まちの魅力発信などに関すること

・地域の活性化、まちの発展について考えてみましょう。
・シャッター街の問題、個人商店の衰退、チェーン店の増加…まちの魅力は保たれているでしょうか。
・観光客向けに PR できるおすすめの観光スポット、観光ルート、プランはあるでしょうか。
・移住を検討している人に「住みたい」と感じてもらえる仕組みはあるでしょうか。
・地元商店や地元の企業では、観光振興のためにどのようなことが行われているでしょうか。
・市役所が支援している観光プランや、市役所が主導しているまちの魅力発信のアクションやプランにはどのようなものがあるでしょうか。また、あなたなら、どのようなことをしますか。

B．「人口減」と「教育」　少子化、子育て支援、生活支援、教育などに関すること

・出生率が下がることにより、日本で、このまちで、何が起こるでしょうか。それは良いことでしょうか、悪いことでしょうか。もし悪いことであれば、それに向けてどんな対応策が必要でしょうか。
・子どもの数が少なくなると、子育ては楽になるのでしょうか。それとも、むしろ大変になるのでしょうか。支援策は必要だと思いますか。不要だと思いますか。もし必要なら、どんな支援でしょうか。
・出生率を伸ばすとしたら、どんな方法、どんな施策が考えられるでしょうか。
・子どもを預ける場所は？保育園、幼稚園、学童…これらは、十分に機能を果たしているでしょうか。
・先生不足の問題、不登校の問題…日本の次世代を担う若者の教育を、どうしていくべきでしょうか。

C．環　境　環境問題、次世代エネルギー、自然、水質や生態系などに関すること

・私たちの居住地域は、あらゆる世代が住みやすい環境になっているでしょうか。
・ごみ問題、廃棄物処分・処理の問題、資源の再利用…クリーンなまちづくりができているでしょうか。
・空気汚染の問題、騒音の問題、自然破壊の問題…どう向き合い、改善していくと良いでしょうか。
・次世代のエネルギーとは？火力、水力、風力、原子力、太陽光、カーボンニュートラル、水素…地球環境にやさしく、私たちも暮らしやすいエネルギーとは、どんなものでしょうか。
・私たちの地域の自然を、海を、川を、山を、生態系を見つめてみましょう。これからもずっと守り続けるべきものは？よりよく変えていくべきものは？大切なものを見つめ直してみましょう。

D. 防犯・防災　地域防災システム、災害対策、防犯・警備、交通などに関すること

・私たちの暮らすまちは安心して暮らせる街ですか。安全に暮らせる環境になっていますか。もしなっていないとしたら、どういう問題があるでしょうか。
・地震や火事が起こったら、水害やそれ以外の自然災害が起こったら…。備えはできているでしょうか。
・交通事故が起こったら、犯罪が起こったら、命の危険が迫ったら…。これらを起こさないための地域の仕組みはできているでしょうか。
・ハザードマップ、避難場所の周知、避難訓練の実施など。自分たちをどう守るべきか、備えがあるかどうかを調べ、よりよい地域づくりについて考えてみましょう。

E. みんなの健康　医療、食、健康、スポーツなどに関すること

・私たちのまちでは、医療は十分に行き届いているでしょうか。お医者さん不足、病院不足の問題などはないでしょうか。
・地産地消、食料廃棄、自給自足、食生活、こどもの食育…私たちのまちの状況はどうでしょうか。より良くするための方法はあるでしょうか。
・日頃の運動不足解消、スポーツを楽しむ機会づくり…地域に住む人たちの健康維持のための仕組みは整っているでしょうか。

F. 歴史・伝統文化　まちの歴史、伝統文化の継承、博物館、地元の祭りなどに関すること

・私たちが暮らしているまちは、歴史的にどんな場所だったのでしょうか。元来、どんな特徴をもっていて、どのようにして発展してきたのでしょうか。歴史をさかのぼって、それぞれの時代に栄えたもの、文化を調べてみましょう。あなたのまちが本来もっている魅力を再発見できるかもしれません。
・各地域にある博物館の収蔵品も、まちを知るうえで大きなヒントになります。時代を超えて、この地域で語り継ぎたいもの、大切に守り抜き、残していきたいものには、どんなものがあるでしょうか。
・地元のお祭りとその歴史を紐解いてみましょう。地域の人々が大切にし、いまに伝え続けてきたこととは、いったいどんなことでしょうか。

G. 超高齢社会　超高齢社会とデジタル格差、介護福祉などに関すること

・国民の約４人に一人が７５歳以上、という社会の到来。現在の日本の仕組み、あるいは地域の仕組みのまま、私たちは安心して、安全に暮らしていけるでしょうか。
・PC、スマホ、インターネット、ATM、キャッシュレス…新しい技術が次々と出てくる現在、デジタル格差は広がっていく一方です。みんなが等しく便利さを享受し、安心して暮らしていくためには、どうすれば良いでしょうか。
・高齢者の生活を支援するための介護・介助の人員は十分でしょうか。また、高齢者の苦労や悩みを聞き、理解し、みなで共有し、解決する―そうした支援の仕組みは整っているでしょうか。そもそも、どんな苦労や悩みをもっていらっしゃるのか、あなたは知っていますか。
・「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」について、あなたのまちではどうですか。

①　分野別グループをＡ～Ｇ中から選び、その理由を書こう　6/12

第１希望（　　）　選んだ理由
第２希望（　　）　選んだ理由
第３希望（　　）　選んだ理由

②　興味関心をもとに探究テーマを考えてみよう

今回の「地域課題解決プロジェクト」に関するテーマの参考例

・空き店舗活用プロジェクト
・観光ルート開発
・商店街活性化企画
・空き家活用提案
・地域の食文化継承
・伝統工芸の継承支援
・地域防災マップ作成
・地域交通問題解決
・地域イベントの企画運営
・地域スポーツ振興
・地域特産品の商品開発
・独居高齢者支援システム構築
・農業の６次産業化推進
・子育て支援サービス開発
・まちの魅力発信プロジェクト

③　分野別グループ内の班員　私の班は分野別グループ（　　）の（　　）班　6/26

班員　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　組　番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　組　番
氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　組　番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　組　番
氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　組　番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　組　番

２ 「地域課題解決プロジェクト」について

地理総合で市原市、袖ケ浦市、木更津市、君津市、富津市が抱える課題を調べ、その現状や取り組みなどを班ごとに資料を作成、屋台村方式でクラス生徒全員が課題を共有します。

総合的な探究の時間での約半年間に及ぶ研究期間は、「現状を知る」、「現状と課題をまとめる」活動から、「解決策を考察する」、「研究をまとめる」活動へと展開していきます。

今後の流れ（６～９月）

こちらを読み取り入力を

(1) **６月１２日のオリエンテーション**で「地域課題プロジェクト」の概要全体を把握する。自分が取り組んでみたい分野のテーマについて希望を出す。
（第３希望まで記入）**６／１８まで**に右の二次元コードから回答する。

(2) **６月２６日**に希望した分野別テーマごとに集り、新たに班を組む。

(3) 各グループ内のそれぞれの班で、「自分たちはどんな課題に取り組むのか」というテーマを検討する。

(4) **７月３日**に検討したテーマや方向性を考慮し、夏休み中に自治体や企業への訪問、体験、見学先などを検討する。この日までに別紙の分野別の見学・訪問先一覧から選ぶ。

(5) **７月 10・11 日**に訪問先における事前準備として、質問やインタビューの内容などを決める。

(6) **９月４日**にお礼状を書く。夏休み中の訪問のフィードバックを行い、各グループで情報共有する。
- 地域へ繰り出す/自分の住む地域を見つめる（観察）
- 課題を見つける（発見）
- どうすれば良くなるか、動きながら考える（調査、分析、検討、行動案づくり）
- 成果を仲間たちとシェアする（発表、評価）

(7) **１０月以降**に具体的な課題や問題点について、調査、分析、検討をすすめながら、まずは個人のレベルでの課題解決案、行動案をつくり、プレゼンテーション資料を各自が作成する。
（発表スライドをつくる）＝９月の教科「情報」で「Ｋｅｙｎｏｔｅ」の使用方法の説明あり。

(8) １０月以降の実施計画は後日提示。最終的には令和８年２月、まとめとしての全体発表会を実施。
- 分野別グループ内で、班ごとにプレゼンを実施する。最優秀の１チームを決める。
- ２月に全体発表会を実施。一般の方々も招へい予定。生徒・参加者から評価をいただく。
- 自分たちで主体的に課題を設定できているか、実社会との接点が確保できているか、インターネット以外の情報源を活用しているか、具体的な実践活動が含まれているかなどが評価の対象。

メモ

質問コーナー

① 探究テーマを途中で変更してもよいですか？
探究の過程で新たな発見があり、より良いテーマが見つかることは珍しくありません。ただし、安易な変更ではなく、それまでの活動から得られた学びを活かせる方向での変更が望ましいです。

② 探究テーマに「正解」はありますか？
テーマ自体に正解はありません。重要なのは、みなさん自身が本気で取り組めるテーマかどうかです。一見単純なテーマでも、深く掘り下げることで素晴らしい探究活動になることがあります。

③ 継続的な探究活動にするために、以下の注意が必要です。
- 記録を残す　・活動記録の作成　・写真や動画での記録　・インタビューの文字起こし
- 活動の意図や背景の文書化　・協力者との関係性の整理　・次年度への課題の明確化

これらの取り組みにより、探究活動の質が向上していくプラスのスパイラルが働き、学校全体で探究的な文化を育てていくことが、みなさんの深い学びにつながっていきます。

総合的な探究の時間　担当　◎星野、成田、宮野、最首、石川